



副院長 就任のご挨拶

副院長 寺澤 孝幸



この度、東北医科薬科大学若林病院への事業譲渡の日である平成28年4月1日より、副院長職を拝命いたしました。どうぞよろしくお願い申し上げます。私は9年前の平成19年4月1日にNTT東日本東北病院の外科部長として赴任し、以後消化器癌・乳癌などの悪性疾患及び鼠径ヘルニアや虫垂炎などの一般外科を中心に診療してまいりました。私はまた当院地域医療連携室長も兼務しており、例年2月の地域医療連携の会（ご近所会）では、主に懇親会の司会などを通して先生方と歓談させていただきお互いの顔の見える連携の大切さをいつも感じてまいりました。医療連携室では各診療科への患者さんのご紹介だけでなく、CTな

どの画像診断だけでもほぼお待たせすることなく対応できますので、どうぞお気軽にご依頼ください。当院と診療でお世話になっている先生方とはこれからも幾久しくお付き合いさせていただきたく思います。来年2月10日（金）ご近所会の開催を予定しておりますので、多くの先生方のお越しをお待ち申し上げます。

副院長 高橋 識至



この4月に当院は東北医科薬科大学若林病院と名称変更され、私も副院長という肩書きをいただきましたが、病院の地域医療における役割に変わりなく、私自身も第一線で診療に携わることにはささかの变化もありません。ただし平成12年に当時のNTT東日本東北病院に赴任して以来、今年で17年目にもなりますので、非力ながらも病院運営に貢献しなさいということなのだと思います。

当院も今後、大学病院として学生教育の一環を担うことになるであろうし、福室の東北医科薬科大学病院と連携しながら、診療体制に多少の変化が出てくる可能性はありますが、今回の大学病院配置の目的が東北の医療を守ることなので、若林区の医療が後退するようなことは決してあってはならないと考えております。

地域医療連携において、これまでも当院を支えてくださった皆様方には大変感謝しております。そして今後はこの医療連携がよりいっそう重要となり、そのためにも「顔の見える連携」が大事だと考えておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

病院理念

人権と生命の尊厳を守り、心のこもった
温かい良質な医療の提供に努めます。

～目次～

- 副院長 就任のご挨拶……………P.1
- 新任医師紹介、認定看護師紹介、市民公開講座 ……P.2
- 診療支援部門紹介……………P.3
- 身体障害者補助犬プロジェクトチーム発足！、TOPICS ……P.4

新任医師紹介

よろしくお願いいたします!!



産婦人科 ^{クロサワ}黒澤 ^{ヒロキ}大樹

9月より産婦人科に参りました。
前任地は東北大学病院であり、生殖医療に従事しておりました。これまでは外来診療がメインでしたが、これからは豊富な手術症例にあたって、一つ一つ誠実に向き合っ
て取り組んでいきたいと思ひます。
よろしくお願いいたします。

お世話になりました。

内科 遠藤 文朗 医師 (平成 28 年 7 月末まで勤務)
産婦人科 氷室 裕美 医師 (平成 28 年 8 月末まで勤務)

認定看護師紹介



皮膚・排泄ケア認定看護師 色川 奈々

私は平成 27 年 5 月に皮膚・排泄ケア認定看護師を取得しました。
現在、病棟に勤務しながら、院内を横断的に活動しています。褥瘡や失禁により生じる皮膚障害などの創傷ケア、消化器ストーマ造設に伴う術前・術後のケアや指導を行っています。また、当院には透析センターがあり、透析に来院される患者さんの皮膚は非常に脆弱であるため、スキンケア（皮膚裂傷）やフットケアにもより一層力を入れていきたいと考えています。

今後はますます在宅でのかわりか重要となり、需要も高くなっていきます。患者さんやご家族が日常生活をより快適に、前向きに生活することができるお手伝いをしていきたいと思っておりますので、介護・看護サービスを行っている方への勉強会開催や相談など、お役に立てることがありましたら、お気軽にお声掛けください。よろしくお願いいたします。

市民公開講座



第2回「ぜんそくフォーラム」

第2回

『ぜんそくフォーラム』

呼吸器内科部長 安達 哲也 医師
薬剤科 岡田 優 薬剤師
(平成 28 年 7 月 20 日開催)

第3回

『子宮筋腫のお話』

産婦人科部長 渡辺 正 医師
(平成 28 年 9 月 28 日開催)



第3回「子宮筋腫のお話」

診療支援部門紹介



■ 臨床工学技士 ■

臨床工学技士は、『医師の下に、生命維持管理装置の操作・保守点検を行うことを業とするもの』と定義され、1987年に制定された比較的新しい業種です。

当院では2016年9月より2人から8人体制となり、2人の時は血液浄化業務とME機器の保守・点検のみで手一杯でしたが、現在では今までの業務にプラスして人工呼吸器にも携わるようになりました。全員のさまざまな経験を活かし、お互いにフォローしあいながら院内外で活躍の場を広げていきます。

上下紺色のユニフォームで働いています。よろしくおねがいします!!
(遠藤 奈々)

■ 視能訓練士 ■

視能訓練士は、眼科で眼圧検査、視力検査、眼底写真撮影、視野検査など様々な検査を行っています。眼科の検査は、患者さんの応答を頼りにするものが多いので、寄り添いながら行えるよう心がけています。視覚から得られる情報は生活する上でかかすことができないものです。患者さんのQOL(生活の質)を上げるため、目の屈折値を矯正するメガネ合わせなども大切な仕事です。快適な生活を送れるように目の健康をサポートするべく日々精進しています。
(大宮 五月)



■ 医師事務作業補助者 (MA) ■

医師事務作業補助者は、医師が行う業務のうち、事務的な業務をサポートする職種です。当院では、MA(メディカルアシスタント)と呼んでいます。私たちに大事なことは、いかに医師の業務の負担軽減をするかということところです。医師の事務作業を軽減し、スムーズな診療ができるよう努めていきたいと思っています。
(海老 藍子)

■ 外来クラーク ■

外来クラークは、外来の「顔」として外来窓口での対応、電話対応が主な業務です。そのため、日頃から身だしなみ、言葉使いに気をつけ、笑顔での対応を心がけています。また、外来の診療がスムーズに行えるように、翌日以降の診療の準備も念入りにしています。その他に、検体の運搬、内視鏡カメラの洗浄、シーツ交換など、業務は多岐にわたります。

これからも協力して外来の診療を支えていきますので、よろしくお願ひします。
(森澤 芳英)



身体障害者補助犬プロジェクトチーム発足！

東北医科薬科大学 若林病院



当院では、今春に施行された「障害者差別解消法」を受け、また、より幅広い患者さんの受け入れを可能とするため、補助犬（盲導犬、聴導犬、介助犬）を同伴した患者さんの受け入れに向け、プロジェクトチームを発足しました。

チームのメンバーで何度もミーティングを重ね、当院での受け入れについての基本となる方針や実際の対応方法と話合っています。現在は、院内の補助犬の同伴禁止区域（公衆衛生上及び安全性の観点から）や排泄場所の設定、職員教育として全職員を対象とした研修会の開催を行っています。

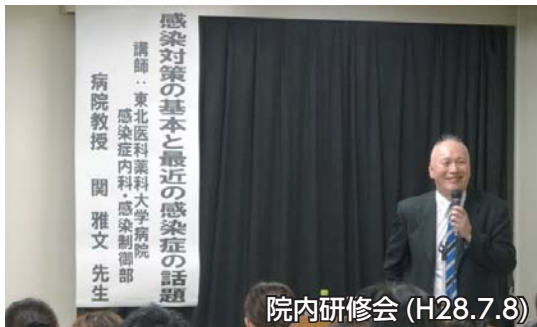
実際に補助犬を同伴した患者さんが来院した場合のシミュレーションを元に、対応マニュアルなども作成しています。

今後は、当院へ通院される他の患者さんにご家族様のご協力を得られるよう、院内ポスターやホームページへの掲載で、随時お知らせをしていきます。

PR活動にきてくれた「ハートン」です



Topics



院内研修会 (H28.7.8)

東北医科薬科大学病院の関雅文先生を招き、『感染対策の基本と最近の感染症の話題』についてご講演いただきました。



七夕コンサート (H28.8.4)

当院耳鼻咽喉科 八木沼医師、音楽療法担当 水戸、地域医療相談室 菅井相談員による七夕コンサートが開催されました



親善ゴルフコンペ (H28.10.2)

近所会のたくさんの先生方にご参加いただきました。当日はお天気にも恵まれ、ゴルフ日和でした。

～地域医療連携室よりご案内～

東北医科薬科大学若林病院近所会（連携の会）を、平成29年2月10日（金）に予定しております。

詳細等、改めて郵送にてご案内させていただきます。

ご多忙の折恐縮ですが、たくさんの先生方のご参加をお待ち申し上げます。

東北医科薬科大学 若林病院
地域医療連携室

〒984-8560 仙台市若林区大和町2-29-1
TEL022-236-5899 FAX 022-236-5920